

【No.23 四国DXC】

● **活動地域** 愛媛県、香川県

● 【四国DXC】の特徴

- **特徴① 地域ITコーディネーターの進化**
- **特徴② 企業間ネットワークの連携**
- **特徴③ 県域を越えたノウハウの共有**



設立の背景・主な構成員

● **地域DX推進コミュニティ設立の背景・きっかけ**

現在、県内において企業やITコーディネーターが個別にDX推進活動を行っている状況では、企業変革につながるようなDX推進まで辿り着かない可能性がある。このような状況を改善するために、伊予銀行グループ、NTTドコモグループなどの地域に根差した企業のネットワークを活用して、首都圏を含めたDX推進メンバーの幅を広げていき、県域を越えてノウハウを共有していくことで、地域企業のDX推進を促進していく。

- **代表機関**：(株)いよぎん地域経済研究センター
プロジェクト管理、事業運営、連携支援
- **構成員**：NPO法人ITC愛媛 伴走支援
(株)伊予銀行 地域企業開拓、ネットワーク構築支援
(株)ドコモビジネスソリューションズ 伴走支援、企画推進、ITベンダーマッチング支援
JOINS(株) 伴走支援、IT人材発掘およびフォロー
(株)セールスフォース・ジャパン 教育、BIツール提供

● **キーパーソン**

➢ 代表機関：(株)いよぎん地域経済研究センター



➢ 氏名：岡本竜太郎（主任研究員）
DX、観光・産品等の受託案件を担当。本事業ではプロジェクト全般を担当し、地域企業・構成員の連携等を支援。

● **問い合わせ先**

(株)いよぎん地域経済研究センター コンサルティング部 岡本竜太郎 089-931-9705 irc-dwax@iyoirc.co.jp
セミナー告知ページ <https://shikoku-dx.jp/>

支援活動の内容

① **地域企業のDX推進に向けた課題分析・戦略策定の伴走型支援**

地域でのDX普及、地域企業のすそ野拡大にむけて、11社の地域企業に合計で約60回の支援を実施。地域企業の現状をヒアリングし、地域企業の実状に合わせた形で、DXの進むべき道を検討し、PoCフェーズの計画書を作成。計画書を策定することで課題や今後の方向性をより具体化していった。

② **地域企業とソリューション提供事業者（ITベンダー等）とのマッチング**

上記PoCフェーズの計画書を作成段階において、課題を発掘しており、地域企業の実状によっては、最適なITベンダーを選定して検討を重ねることになった。11社のうち、9社がITベンダーもしくはITコーディネーターのアドバイスのもと、活用するツールを選定した。

③ **その他、地域企業のDX推進に向けた支援活動**

本事業における取組内容や課題を共有するために、DX推進セミナーを4回企画・開催した。

➢ 構成員：(株)ドコモビジネスソリューションズ



➢ 氏名：中川恵介（DX推進アドバイザー）
DXを通じて地域創生を支援。本事業では企画推進および地域企業への伴走支援、ITベンダーマッチング支援を担当。

【No.23 四国DXC】

支援スケジュール（令和4年度実績）

事業内容\月	令和4年									令和5年		
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
				★9/8セミナー開催			★11/10セミナー開催	★12/8セミナー開催		★2/9セミナー開催		
①地域企業のDX推進に向けた課題分析・戦略策定の伴走型支援		支援体制構築		地域企業のニーズを踏まえて、メンバーを追加								
伴走型支援チームの立ち上げ	→			→			支援企業課題深掘り					
地域企業の課題分析・深掘り		→					→			PoC計画書 報告会 (2/9、15)		
地域企業の戦略策定・設計書作成			全支援企業に対してヒアリングを開始	→			PoC報告書 中間報告会(12/22)	→				
②地域企業とソリューション提供事業者（ITベンダー等）とのマッチング支援			当初の想定よりも時期を早める形でスタート	→			DX推進担当であったITコーディネーターがITベンダーの役割を担う形でソリューション導入を検討					
ITベンダーとの情報交換、課題確認			→			→						
ソリューション導入検討	8月から1月まで毎月事業の進捗を確認するために進捗確認会議を開催							→				
③その他、地域企業のDX推進に向けた支援活動				LP製作スタート		LP製作公開						
DX推進セミナーの企画・運営			→			→			→			
会員（構成員・地域企業）の拡大				→			構成員1社追加	→				

・ 事業実績：支援を実施した企業数（①課題分析・戦略策定、②課題分析・戦略策定・ベンダーとのマッチングの内訳）、実績結果への所感等

11社支援の内、11社の課題分析および今後の方向性は策定。ITツールの導入検討を含めたベンダー（ITコーディネーター含む）とのマッチングについては9社が完了。ベンダーとのマッチングが完了していない2社についても、コストを踏まえた上で導入を検討している。一方で地域企業の実状、ニーズに応じた形で、検討を進めており、地域企業によるばらつきが多かった。また、支援した地域企業から今回の事業に対して感謝の声が多数あった。

・ 波及効果について：

今回の事業を通じて、香川と愛媛のDX推進関係者のなかで、ネットワークが構築されつつあり、四国DXCの枠組みを踏まえた形で、プロジェクトに取り組む動きがある。また、地元のITコーディネーターも、四国DXCの活動に関心を持ってもらっており、条件があれば、新しいプロジェクトに参画してもらう可能性がある。

・ 自走化への道筋：受益者負担の考え方、構成員への会費負担の引き上げ、広報活動の強化等

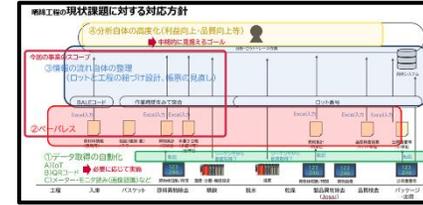
今後の運営については、IRCが主体となって、構成員とコミュニケーションを図りながら自走化を目指していく。また、広報活動については、四国DXCの良さを構成員から知り合いに告知していただくことで、輪を広げていく。

● 支援先企業の概要：

- ・業種：繊維業 ※中分類
- ・資本金：2億9,000万円
- ・従業員数：700名
- ・主要製商品／サービス：コットン不織布（化粧綿は国内トップシェア）

● 支援先企業が抱える課題：

コットン由来の医療・介護用品・化粧用品・衛生用品・ベビー用品・家庭用品を製造・販売している企業への納品が主であるが、コットン商品の現状シェアは1%程度である。環境問題を考えると天然であるコットン由来の不織布を増やしていくのは地球規模においても重要なテーマであるが、不織布のカテゴリーでコットン由来の不織布の生産量は極めて低い。生産量が低い理由は、異物混入の除去、検査等に多くの稼働を要しているからである。この課題解決として、令和3年度に経産省地域産業デジタル化支援事業において「AIを活用した分類モデルを作成して夾雑物分布による一次加工品のグレード付与」により検査工程における異物混入除去の効率化による品質および生産性向上を図る取組みをIRC及びドコモと行っていたことから引き続きIRC及びドコモが参画しているコミュニティに支援を依頼することにした。



● 支援内容：

代表機関である「いよぎん地域経済研究センター」から昨年度の実績によりドコモ（R4.7から法人部門はNTTコミュニケーションズに移管）に支援を依頼。それを踏まえ、基幹業務である晒綿製造工程における「データ活用によるトレーサビリティの実現」に向けたコンサルティングを実施して現状課題に対する対応方針（ロードマップ）を策定した。ロードマップの中期目標としては分析の高度化による利益向上・品質向上であるが、今回はデジタル基盤を構築するために2つの仮説①ペーパーレス化による生産性向上及び②各作業工程の情報の紐づきの可否について実現可能か現地工場でのPoC検証を実施した。また、DX推進責任者がドコモが受託業務として実施しているDX研修（6回シリーズ講座）に参加いただき、成長戦略からデザイン思考による課題解決、PoC計画書を実践するためのポイント等について理解を深めていただいた。

● 支援成果：

今回の実証において、ペーパーレス化によって実績データをシステムに登録していくことが可能であること、実運用に合わせた形でシステム設計をすることでトレーサビリティの実現も可能な見込みであることが実証確認できたことから、今後は詳細な要件定義を実施し、本導入に向けた提案に加え、「データ取得の自動化」および「分析自体の高度化」に向け、引き続き提案していくこととしている。現状は生産管理システムが導入されているが、デジタル基盤としての工程管理機能を新たに追加した生産管理システムを構築することにより生産性向上に大きく貢献できると考えている。

● 支援成功のポイント：

このコミュニティが所在する愛媛県では、R4.2に県内産業の競争力・収益力の強化を図るためのDX実行プラン（2030年度目標）を策定しているが、多くの企業は保守的でありDXに関しては推進よりは学びの段階であると想定している。その中で支援企業は「品質で世界一のコットン屋」になるためにDX推進による成長戦略・事業変革を全社方針として取り組んでいることから、取り組み体制として経営層にも参加いただき、打ち合わせにも毎回参加、経営層のリーダーシップの下、企業のDXを進めることができた。経営者と現場の責任者が一体となって、DX推進に向けて検討できたことで、支援成功のポイントであったと思われる。